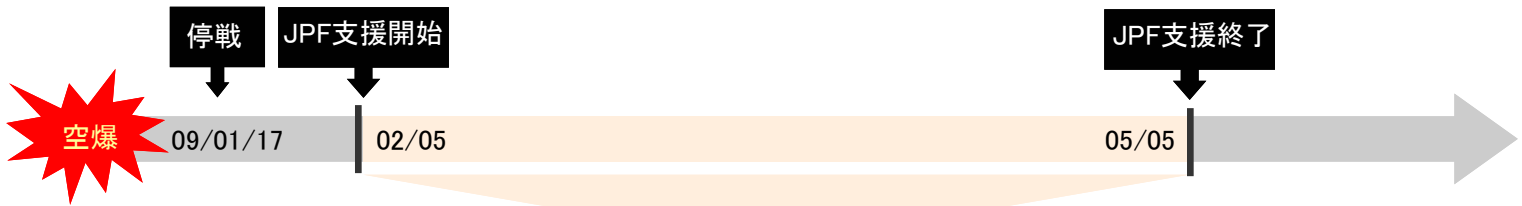


空爆、停戦から5ヶ月 —3ヶ月間の支援報告—

2009年7月2日現在



ワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ)



食料を受け取った支援者と喜びの声を聞くスタッフ: 南部ガザ



配布を待つWVJ支援物資の食料: 南部ガザ

パレスチナ子どものキャンペーン(CCP)



健康診断を実施している日本人看護師: ガザ市



貧困家庭への配布(子どもたちの衣料品): ハンユニス市

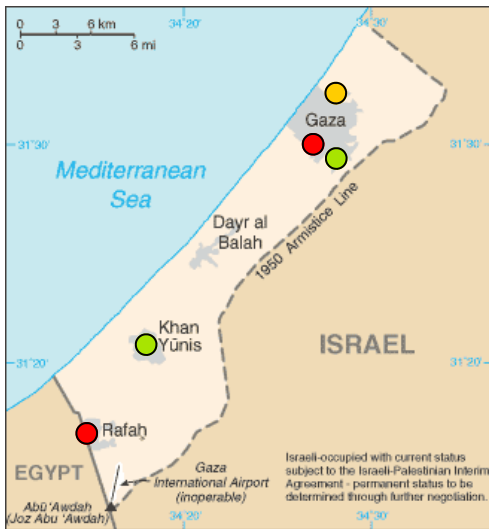
日本国際民間協力会(NICCO)



折り鶴が上手にできて大喜びの子どもたち: テルアルスルタン地区



障がい者施設内へおむつを搬入。子どもたちもお手伝い: テルアルスルタン地区



ワールド・ビジョン・ジャパンは、空爆による被災者2,500家族に緊急食料支援を行いました。配布した食糧は、トマト、イチゴなどの野菜・果物、さらにはオリーブオイル、牛肉の缶詰、豆類、米、塩などを多岐にわたりました。

パレスチナ子どものキャンペーンは、医療と栄養改善に特化した事業を行いました。子どもを対象とした健康診断から心理サポートスタッフを対象とした心理ケア、さらには女性向けクリニックへの医薬品配布も実施し、主に子どもや女性などの健康・栄養状態改善のための活動を行いました。

日本民間国際協力会は、ガザおよびラファで家屋が全半壊した2,200世帯を対象として、食糧、毛布、水タンク、台所用品などの物資配布を、ラファの障がい者施設には医薬品および大人用おむつの配布を行いました。また、折り鶴づくりによる子どもとの交流によって心のケアに一役買うことができました。

支援概要

総助成額	91,828,059円
総事業数	6事業
事業実施団体数	3団体
事業実施期間	89日



ガザ支援におけるJPFの役割

JPFの主な役割は、活動実施団体への活動資金の助成です。資金助成に際して申請事業の内容を審査し、事業が開始してからは個別事業さらにはプログラム全体の運営管理を行います。また、帰国した実施団体スタッフの報告会を開催して活動報告を行うほか、支援関連情報を収集し支援実施団体と共有することで効率的な支援を実施できるように環境整備も行いました。JPFの活動についてご関心のある方はこちらまでどうぞ。

<http://www.japanplatform.org/top.html>